

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 3 月 31 日作成)

小委員会名	住宅用燃焼器具における設計施工・維持管理と 使用法刊行小委員会	主 査 名：野崎淳夫 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)	委員長名：持田灯 主 査 名：岩田 利枝
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(設置目的)</p> <p>目的：燃焼器具を使用する建築物の設計、施工、メンテナンスの方法などを平易に解説する書籍の刊行を目的としている。</p> <p>初年度：燃焼器具がもたらす室内環境への影響は大きい。とりわけ、燃焼器具使用時の室内空気汚染による死亡事故は後を絶たない。その為、燃焼器具を建築物で使用するには、適切な建築設計、施工、据え付け、メンテナンス、あるいは使用が前提となる。ただし、そのような指針書はほとんど見当たらない。そこで、下記に示す項目に沿って、原稿を作成している。</p> <p>2 年度：提出原稿の取り纏め、査読等の準備を行う。</p> <p>3 年度：2022 年 2 月に刊行。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：</p> <p>主査：野崎淳夫(東北文化学園大学大学院) 幹事：二科妃里(東北文化学園大学) 委員：東 賢一(近畿大学医学部)、池田耕一(日本大学理工学部)、一條佑介(東北文化学園大学)、大澤元毅(国立保健医療科学院)、鍵 直樹(東京工業大学大学院)、金 勲(国立保健医療科学院)、篠原直秀(産業技術総合研究所)、関根嘉香(東海大学理学部化学科)、成田泰章(暮らしの科学研究所)、野口美由貴(成蹊大学理工学部)、長谷川麻子(熊本大学大学院)、水越厚史(近畿大学医学部)、村上栄造(朝日工業株式会社)、柳 宇(工学院大学建築学部)、山口 一(大同大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2020 年度予算	90000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	1. (名称) 参加者数 名 (資料名)
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出版に結び付く燃焼排ガス関連の情報収集作業を完了させた。 2. 発生源毎に生成ガスの種別とその発存量・発生特性を調査した。また、汚染防止に必要な対策法を詳しく述べる内容の目次案を作成した。 3. 特に、現行の工学的な規制基準と照らし合わせ、室内濃度レベルと個人暴露量との関係に関わる検討作業を行った。 4. 作業を基に目次、執筆担当者を選出し、原稿を完成させた。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ下の影響により、委員会開催や査読など一部遅れている部分がある。 2. 効率よく、執筆・査読を進め、作成原稿を製本・出版させることが課題である。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の赤文字「(設置目的) (書名) (名称) (資料名)」は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2020 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>燃焼器具がもたらす室内環境への影響は大きい。とりわけ、燃焼器具使用時の室内空気汚染による死亡事故は後を絶たない。その為、燃焼器具を建築物で使用するには、適切な建築設計、施工、据え付け、メンテナンス、あるいは使用が前提となる。ただし、そのような指針書はほとんど見当たらない。</p> <p>よって、燃焼器具を如何に建築物内で機能させるかについての設計・施工、あるいは使用法等に関わる対応は、喫緊の課題と言える。</p> <p>読者に対して、燃焼器具が建築物で使われる際の室内環境の変化、問題、解決策、留意点などを明示するため、原稿内容を精査した。</p> <p>ただし、原稿データを基に委員会を開催し、査読等の準備を進めることができなかった。次年度においては、オンラインなどによる委員会を開催し、刊行に向けて取り組む。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。